

特集 再生医療と栄養

【巻頭言】

三田村 佳 典 (徳島大学大学院医歯薬学研究部眼科学分野)

瀬川 博 子 (同 応用栄養学分野)

2014年9月にわが国において世界で初めて人工多能性幹細胞 (iPS細胞) を用いた移植手術が眼科領域の疾患である加齢黄斑変性に対して行われて以降, 再生医療の分野で着実に成果があげられており再生医療に対する国民の期待は日増しに強くなっている。また, 人生100年時代における健康寿命延伸のための健康増進および生活習慣病を克服するために食習慣などの栄養に関する関心も高まっている。第267回徳島医学会学術集会では, 再生医療と栄養の現状を広く市民の方に知っていただきたいという主旨のもと, 市民公開シンポジウムとして再生医療と栄養を企画した。4人の演者の先生方からそれぞれの領域の最新の情報を得ることができた。

まず, 徳島大学医歯薬学研究部臨床食管理学分野の大南先生が運動療法の機能回復効果の向上のためにリハビリテーション患者の栄養管理を積極的に行うリハビリテーション栄養について基本的な知識や現在の取り組みについて講演された。次に仁愛大学人間生活学部健康栄

養学科の山本先生は心血管疾患などが重症化して寝たきりに至ることを予防するために, 何を, どれだけ, どのように, いつ摂取すべきかという時間栄養学に関する知見と, 推奨されるビタミンDの摂取方法について自身の研究成果とともに解説された。

後半のセッションでは徳島大学病院眼科医員の梶田先生が再生医療に関心を持つ一般市民に向けて再生医療の基礎知識と実際の臨床応用について徳島大学での取り組みも含めてわかりやすく講演した。最後に神戸市立神戸アイセンター病院研究センター長の万代先生はiPS細胞から網膜の細胞や組織を分化培養皿の中で作成することに成功し, 加齢黄斑変性の症例への網膜色素上皮の移植, 網膜色素変性の症例への網膜シートの移植についてこれまでの成績と今後の展望について話された。

本シンポジウムが徳島県の皆さんの再生医療と栄養への理解を深める一助となることを切に願っている。